

テーマ	決算整理仕訳
-----	--------

1. 次の取引について仕訳を示しなさい。

- (1) 本日、決算を迎えたが、現金過不足¥300（借方残）については依然として原因が判明しないままであった。
- (2) 本日、決算を迎えたが、現金過不足¥300（貸方残）については依然として原因が判明しないままであった。
- (3) 決算日となり商品に関して決算整理仕訳を行う。なお、当期商品仕入高は¥1,000、期首商品棚卸高は¥300、期末商品棚卸高は¥200 であった。売上原価は仕入勘定で算定する。
- (4) 売掛金¥10,000 が回収不能となった。
- (5) 決算にあたり、売掛金¥10,000 に対して 3%の貸倒引当金を設定する。なお、貸倒引当金の残高は¥100 である。
- (6) 株式 10 株(取得価額@¥50,000)が 1 株 40,000 に値下がりしているので、評価損を計上した。
- (7) 株式 10 株(取得価額@¥50,000)が 1 株 60,000 に値上がりしているので、評価益を計上した。
- (8) 取得価額¥500,000、残存価額は取得価額の 10%、耐用年数 10 年の備品を減価償却した。（直接法）
- (9) 取得価額¥500,000、残存価額は取得価額の 10%、耐用年数 10 年の備品を減価償却した。（間接法）
- (10) 備品（取得価額¥100,000、残存価額取得価額の 10%、耐用年数 5 年、取得後 2 年経過）を現金¥70,000 で売却した。（直接法）
- (11) 備品（取得価額¥100,000、残存価額取得価額の 10%、耐用年数 5 年、取得後 2 年経過）を現金¥70,000 で売却した。（間接法）
- (12) 備品（取得価額¥100,000、残存価額取得価額の 10%、耐用年数 5 年、取得後 2 年経過）を現金¥60,000 で売却した。（直接法）
- (13) 備品（取得価額¥100,000、残存価額取得価額の 10%、耐用年数 5 年、取得後 2 年経過）を現金¥60,000 で売却した。（間接法）
- (14) 消耗品を 現金¥500 で購入した。（購入時資産処理）
- (15) 上記(14)の消耗品について、決算日における未使用高は ¥100 であった。（購入時資産処理）
- (16) 消耗品を 現金¥500 で購入した。（購入時費用処理）
- (17) 上記(16)の消耗品について、決算日における未使用高は ¥100 であった。（購入時費用処理）
- (18) 決算日（3 月 31 日）にあたり、12 月 1 日に 1 年分¥1,200 支払った保険料のうち、未経過分を繰り延べる。
- (19) 6 月 1 日に建物の賃借契約（期間 1 年、月額¥100）を結び、家賃は契約終了時に全額支払うことにしていたが、決算日（3 月 31 日）にあたり、経過分を見越し計上する。
- (20) 決算日（3 月 31 日）にあたり、12 月 1 日に 1 年分¥1,200 受取った手数料のうち、未経過分を繰り延べる。
- (21) 6 月 1 日に建物の賃借契約（期間 1 年、月額¥100）を結び、家賃は契約終了時に全額受け取ることにしていたが、決算日（3 月 31 日）にあたり、経過分を見越し計上する。

テーマ	決算整理仕訳
-----	--------

	借方	貸方
(1)		
(2)		
(3)		
(4)		
(5)		
(6)		
(7)		
(8)		
(9)		
(10)		
(11)		
(12)		
(13)		

テーマ	決算整理仕訳
-----	--------

	借方	貸方
(14)		
(15)		
(16)		
(17)		
(18)		
(19)		
(20)		
(21)		